

III Volunteer for Oversea Students/International Lounge

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子, 袴田, 麻里, 佐川, 祥予 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028606

Ⅲ 留学生支援ボランティア・国際交流ラウンジ

熊井 浩子／袴田 麻里／佐川 祥予

静岡キャンパスでは、令和2年度から「留学生」「支援」から、日本人学生・留学生が対等な立場でより主体的・双方向的な活動を行う場として発展させていきたいと考えていたが、残念ながら後期も新型コロナウイルスの影響でほとんど活動できない状態となってしまい、新規募集も行われなかった。

浜松キャンパスは、新入生ガイダンスの縮小によりボランティア募集の呼びかけができず、また来校自体ができない時期が続いたため、留学生歓迎会や交流会が実施できなかった。そのため、在学生も令和2年度入学生もボランティア継続、応募する学生が極端に少なくなった一方でオンラインでのイベントについては静岡と合同で実施することができるなどのメリットもあった。

1. 留学生支援ボランティア

留学生支援ボランティアは平成14年度より活動が始まったが、平成2年度は12月現在で静岡キャンパス20名、浜松キャンパス7名、計27名となっている。部局別登録者数は、次の通りである。

年度	人文 (社会科学)	教育	農	理	地域創造 学環	工	情報	合計
平成 15年度	7	22	8	0		4	5	46
16年度	24	21	8	5		5	6	69
17年度	13	26	5	10		7	6	67
18年度	19	44	5	4		16	6	94
19年度	29	46	6	3		9	5	98
20年度	43	40	7	3		19	4	116
21年度	36	31	5	5		20	6	103
22年度	40	35	4	6		26	14	125
23年度	46	30+2=32	6+1=7	6+2=8		13+5=18	11	122
24年度	18	23	5+1	5		20+10	13	84+11
25年度	39	23	4+1	4		20+9	12	103+10
26年度	37+1	24+1	1+1	4		23+4	23	112+7
27年度	28+1	20	2+1	6		23+5	25+1	104+8
28年度	21	20	0	5+1		26+6	27	99+7
29年度	14	14	3	4		16+4	17	58+4
30年度	20	10+1	4	6		20+3	22	84+4
令和 元年度	14	7+2	8	1	1	20	18	69+2
令和 2年度	3	3+2	6	4	2	4	2+1	24+3

* +の前が学部生、あとが大学院生である。総合科学技術研究科は専攻により集計。
+がないものは学部生のみ。

コロナ禍の中、交流活動の実施は難しかったが、日本語の授業に会話パートナーとして参加するなど、小規模な活動への参加はあった。

2. 国際交流ラウンジ

2. 1. 静岡キャンパス

令和元年度7月に留学生と日本人学生、留学経験者などが英語や日本語で交流・情報交換できる場として「国際交流ラウンジ」をオープンさせ、英語ネイティブのファシリテーターのもとで気軽に英語でコミュニケーションを行うEnglish Loungeや機構・学生企画のイベント実施等、活発に活動してのべ700人の参加があった。令和2年度はコロナの影響で活動の縮小を余儀なくされたが、後期も前期に引き続き毎週月曜日（のちに金曜日に変更）・水曜日・木曜日にEnglish Loungeをオンラインで実施、併せて小規模ながら学生ボランティアによるオンラインと一部対面による活動を実施することができた。

さらに3月には留学生支援ボランティア・ラウンジボランティアに加え、グローバル・アジア特別教育プログラム登録者や機構が令和2年度後期に実施したグローバルリーダー

育成プログラムであるスチューデント・アンバサダープログラム、グローバルリーダーシッププログラム受講者など、交流活動に関心のある両キャンパスの学生を集めたミーティングを行い、機構の支援のもとで国際交流ボランティアとして学生主体の交流活動を推進していく方向性を確認し、令和3年度に向けた体制づくりがスタートすることになった。

2. 2. 浜松キャンパス

静岡キャンパスで実施されたラウンジ交流活動は、オンラインによるものが増え、浜松キャンパスからも参加が可能となった。

対面での企画では、昨年度実施した「国際文化体験祭」と「インターンシップ報告会」を今年度も継続して実施した。「国際文化体験祭」は小規模・短時間で行い、留学生が自国の文化を紹介する活動を行った。また、「インターンシップ報告会」は、オンラインで実施した。令和2年度は、浜松茶業組合より茶葉の提供を受けた。そこで、十分に換気ができる浜松キャンパス佐鳴会館を会場に、お茶インストラクターを講師に静岡茶のミニセミナーを実施し、15名の学生が淹れ方や飲み方を体験した。また、cinemoを活用してzoomでの映画「おクジラさま ふたつの正義の物語」を上映した。

これらの活動を通して新型コロナウイルス感染拡大防止の留意点を検討しながら、令和3年度に向け、対面でのラウンジ活動を想定して、準備を進めた。

このように令和2年度後期は小規模ながら交流活動が再開されたが、それ以上に学内の多様なグローバル人材育成プログラム参加者等の学生を国際交流ボランティアとして取りまとめ、学生主体の活動へと発展させる体制づくりに向けてスタートできたことが最大の成果であると言える。